

独立行政法人福祉医療機構 令和2年度社会福祉振興助成金事業

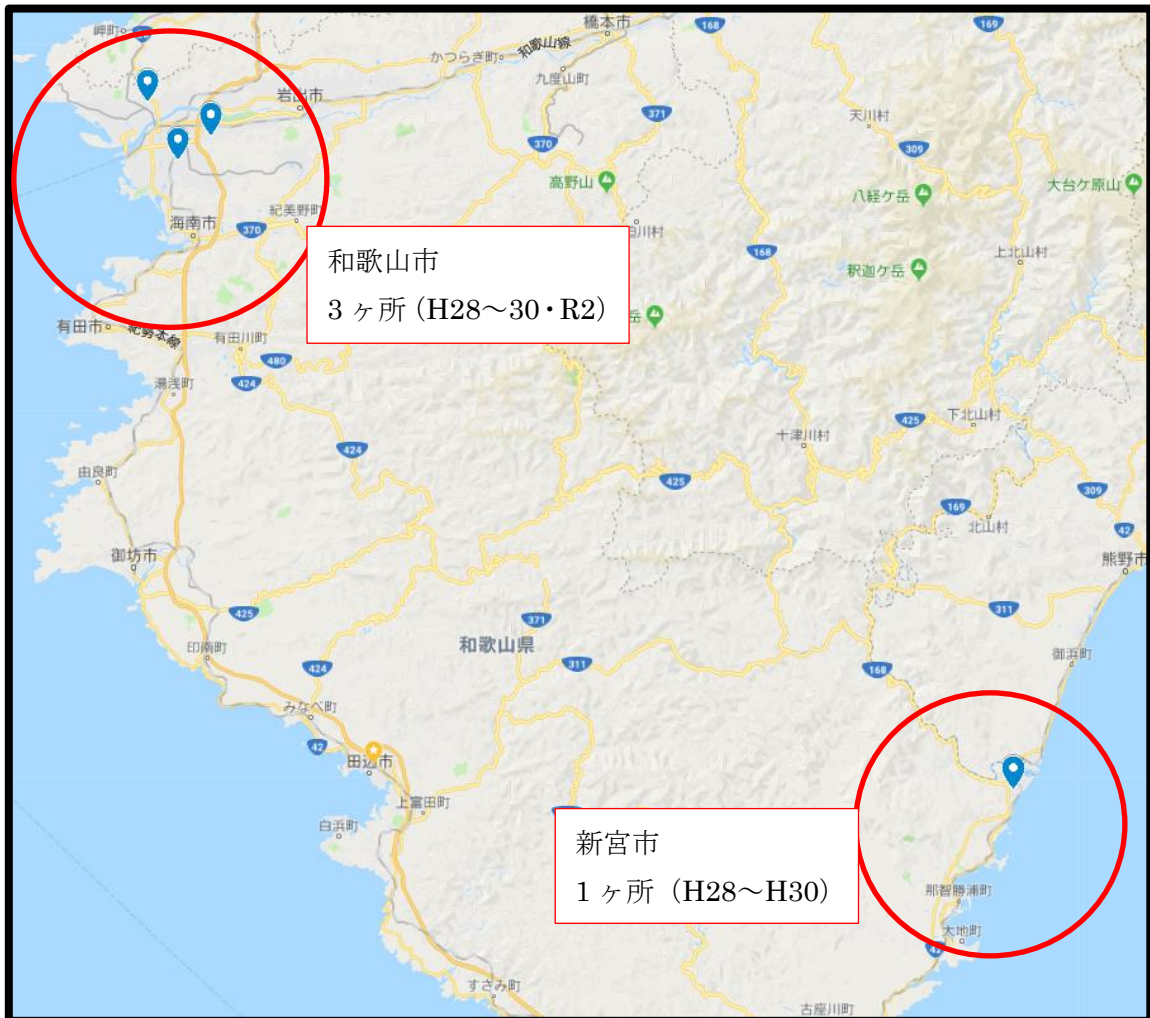
生活困窮世帯小中学生のための学習支援事業 報告書

## 1、事業の概要

平成28年度から平成30年度の3年間と令和2年度、当会は「独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成金事業」を受け、和歌山県内において、学習支援事業を実施しました。平成28年～平成30年度の3年間は和歌山県内4ヶ所の児童館（和歌山市3ヶ所）（新宮市1ヶ所）で実施し、令和2年度は予算の都合上、3ヶ所において実施しています。

学習意欲の有する小中学生に学校外教育を受けたくても、経済的に塾に通わせることが難しい家庭などを対象とし、「高校に進学したい」「学力を高めたい」「学校の授業に追いつきたい」など様々な目標・要望に応えるべく、和歌山市では、和歌山大学の学生を中心に、新宮市では、有志の教職員経験者の方々を中心とした学習サポートを行ってまいりました。

また子ども社会性向上のために「マナー講座」「季節ごとのイベント」や学習支援時に「あいさつ」「姿勢」を中心に「学校・家庭」以外での社会との関わりにも注力しました。



実施箇所の選定は、初年度より和歌山県教育委員会、和歌山市教育委員会、和歌山県子ども会連絡協議会、和歌山県児童館連絡協議会などの団体や、研究データなどから4ヶ所の学力が相対的に低く、ひとり親家庭等が相対的に多いと判断し、4箇所に選定しました。

1年のブランクの間も支援の声を求める声も多くあがっていました。継続支援により、認知度も向上し、他地域からの実施の声も多くいただきました。

(1) 全国学力調査より分析

[全国学力テスト順位]

区分	小学校				中学校			
	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
平成31年度	23位		19位		42位		26位	
平成30年度	10位	19位	21位	18位	35位	39位	10位	34位
平成29年度	21位	21位	19位	12位	27位	41位	17位	17位
平成28年度	45位	40位	26位	30位	41位	43位	19位	26位

※文科省データによる。

平成28年度は小学校・中学校ともに、国語の学力順位全国平均より大幅に低く、算数・数学も中位程度でした。平成29年に一部改善は見られたものの、中学生の各分野では大幅な落ち込みもみられた。

(2) 全国学習状況調査より分析 質問調査

①「勉強は好きですか」について、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合は、小学校の国語、算数、中学校の数学では全国を上回っているが、中学校の英語では全国を下回り、中学校の国語では全国を下回り、差がある。

(小学校)				(中学校)			
児童質問紙	県	全国	差	生徒質問紙	県	全国	差
H28国語	55.6	58.3	-2.7	H28国語	52.3	59.8	-7.5
H29国語	59.9	60.5	-0.6	H29国語	52.9	60.5	-7.6
H31(R1)国語	64.4	64.2	0.2	H31(R1)国語	57.1	61.7	-4.6
H28算数	68.4	66.0	2.4	H28数学	53.9	56.0	-2.1
H29算数	68.6	65.9	2.7	H29数学	54.5	55.4	-0.9
H30算数	64.8	64.0	0.8	H30数学	52.5	53.9	-1.4
H31(R1)算数	70.7	68.6	2.1	H31(R1)数学	58.1	57.9	0.2
				H31(R1)英語	53.7	56.0	-2.3

勉強が好きかどうかでは、小学生は全国製品を上回っているものの中学生は全国平均を大きく下回っています。

- ②「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」について、「全くしない」と回答した割合は、小学校では全国より低く、中学校では全国より高く、差がある。

(小学校)				(中学校)			
児童質問紙	県	全国	差	生徒質問紙	県	全国	差
H28	22.0	20.6	1.4	H28	44.2	37.2	7.0
H29	21.9	20.5	1.4	H29	43.3	35.6	7.7
H30	19.6	18.7	0.9	H30	40.8	32.9	7.9
H31 (R1)	18.3	18.7	-0.4	H31 (R1)	41.4	34.8	6.6

※和歌山県平成31年発表資料より

読書は相対し、小学平均は全国平均より低く、中学生は大幅に上回っています。

- ③「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか」について、「ほとんど、または、全く行かない」と回答した割合は、小学校では全国より低く、中学校では全国より高く、差がある。

(小学校)				(中学校)			
児童質問紙	県	全国	差	生徒質問紙	県	全国	差
H28	34.4	31.1	3.3	H28	63.7	58.0	5.7
H29	34.9	32.4	2.5	H29	63.3	58.0	5.3
H31 (R1)	29.2	29.9	-0.7	H31 (R1)	59.3	55.3	4.0

当会独自の調べですが、和歌山県では大手塾有名塾は、市街地に集中し、山間部や沿岸部では町の個人塾がほとんどです。更に個人塾も小学生を対象とした塾となっています。中学生、高校生対象の塾となると、通塾に1時間程度、山間部地域になると、送迎で往復2・3時間程度かかる地域も多くあります。そういった理由も一因にあると考えます。

文章読解や長文理解力が備わっていない現状があります。

これも塾などに通えていない子どもが多く、問題の数をこなしていないことも原因の一つと考えます。

一昨年度和歌山県教育委員会様とのお話でも同様の見解が得られ、図書館や、本屋さんの減少、活字の読み書きの機会が近年顕著に表れていることがうかがえます。

当会では実施個所と連携し、待ち時間などに支援員から読書の機会提供も行っています。

### 他地域への普及活動

かねてから視察に訪れて頂いている自治体にアプローチを行いました。平成29年度より和歌山県湯浅町で当会のシステムを取り入れた学習支援、連携団体の代表の方が取り仕切る団体が、和歌山県北山村においても学習支援活動をスタートしました。

当会の本年度の成果として、「2020年度」より和歌山市において同様の事業を当会が準備段階から参加し、これまでの活動内容や行政のデータをもとに公募形式でスタートし、成果を上げています。

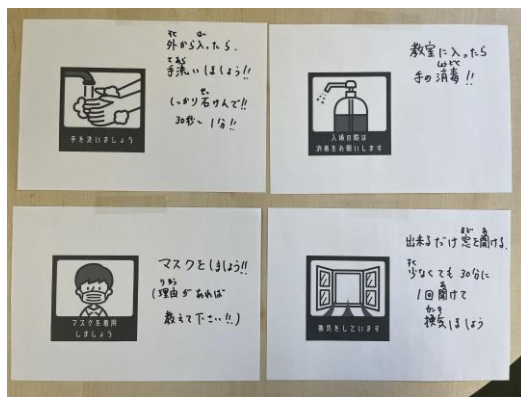
事業普及も少しずつではありますが、成果が出てきています。他自治体へもアプローチを行っていますが、行政予算化、制度化の壁がまだまだ高く感じています。しかしながら、実際に湯浅町・北山村・和歌山市での動き出しがあるために、引き続き働きかけを続けています。

### 新型コロナウイルス感染症対策

緊急事態宣言、学校休校や公的機関の閉館などもありましたが、教育を止めるわけにはいきません。家庭学習の推進も行い、連携団体である子ども会連絡協議会とも協力し子どもたちは学習をおこないました。

本年度は、WAM助成事業を実施できたものの活動準備、開始段階に新型コロナウイルス感染症拡大のため、実施個所、連携団体の協力のもと、感染予防対策をしっかりと行いました。

掲示と声かけ、実施個所とも連携し、定期消毒と換気を徹底し、実施しています。



掲示 案内



密集を避けスペースをとって学習

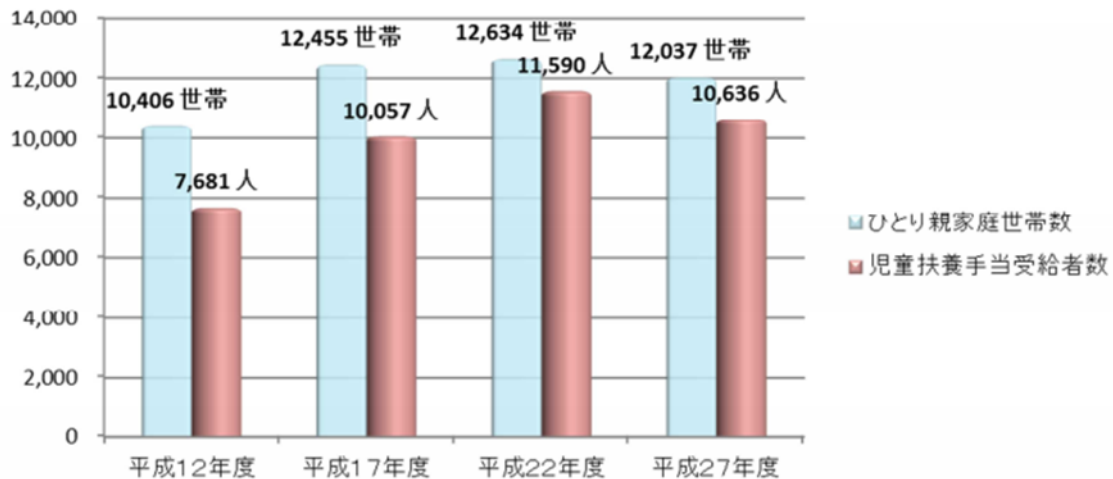
### 3、事業の目的

「学力の向上・社会性の向上を図り貧困連鎖を解消すること」「地域で子どもを育てること」を目的とし活動しております。

また平成28年～平成30年の3年間また本年度WAM助成を頂いたことにより引き続き地域貢献と子どもの学習支援が可能となりました。平成31年度は、運営資金面から未実施となり、多方から実施を求める声をいただきました。依然塾に通わすことが出来ない家庭などからは、強く要望が上がってきています。

具体的には、生活困窮世帯など経済的に困難な世帯では、家庭内の学習環境が十分ではないなどの問題があり高校進学率が相対的に低く、また学力が十分に身につけていないため希望する高校への進学ができなかったり、高校中退率が高い現状にあります。

ひとり親家庭世帯数と児童扶養手当受給者数(和歌山県)



※和歌山県平成29年度学力調査発表資料より

そのため将来、就労の範囲が狭まり安定した職業につけない、或いは自己の知識や精神が成熟していないために適切な選択ができずに低所得となってしまうなど、結果的に「貧困の世代連鎖」という事が問題となっています。

上記統計でも、「予習・復習をする」習慣が、まだまだ進んでおりません。背景には家庭的な背景や、貧困による部分が見え隠れしています。

このような状況を少しでも改善すべく予習・復習の習慣を身に着けられるよう日々、各児童館にて学習支援を行っております。

保護者からは「コロナ禍の学校休校中も塾に行ける子どもとの差が心配であった」「外出も制限されているなかで、学習面以外の活動も助かっている」「この活動の話題が、家庭での話題になるためこのご時世には助かる」など学習面に加え、コロナ禍のことについても多くの声を頂いています。

生活保護世帯の子供の進学率、就職率、高等学校中退率

○中学校卒業後

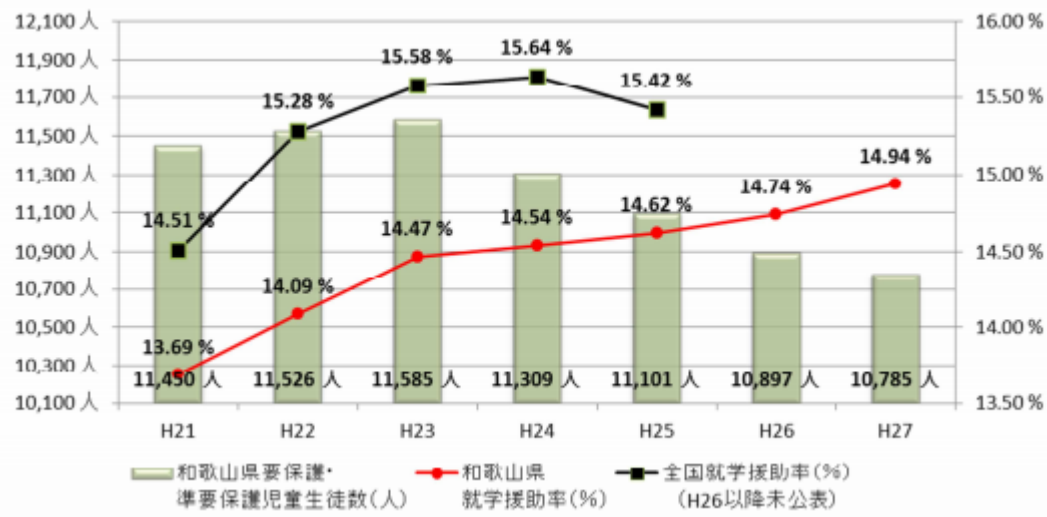
高等学校等進学率(%)	和歌山県		全国	
	県内全体	生活保護世帯	全体	生活保護世帯
平成24年度卒業	98.7%	92.8%	98.3%	90.8%
平成25年度卒業	98.7%	95.7%	98.4%	91.1%
平成26年度卒業	98.9%	96.1%	98.4%	92.8%

就職率(%)	和歌山県		全国	
	県内全体	生活保護世帯	全体	生活保護世帯
平成24年度卒業	0.5%	2.1%	0.4%	2.5%
平成25年度卒業	0.6%	-	0.4%	2.0%
平成26年度卒業	0.6%	1.3%	0.4%	1.7%

高等学校等中退率(%)	和歌山県		全国	
	県内全体	生活保護世帯	全体	生活保護世帯
平成24年度卒業	1.5%	4.2%	1.5%	5.3%
平成25年度卒業	1.6%	4.8%	1.7%	4.9%
平成26年度卒業	1.7%	5.1%	1.5%	4.5%

※高等学校等とは、高等学校、中等教育学校後期課程、特別支援学校高等部、高等専門学校又は専修学校等をいう。なお、高等学校等中退率は、専修学校等を含まない。

和歌山県内の要保護・準要保護児童生徒数と就学援助を受けた児童生徒数



※和歌山県発表資料より

前項より、統計開始より浮き沈みはあるものの、依然和歌山県の高校進学、高校中退は県全体として問題に上がっています。特に生活保護世帯では全国的に顕著に現れております。

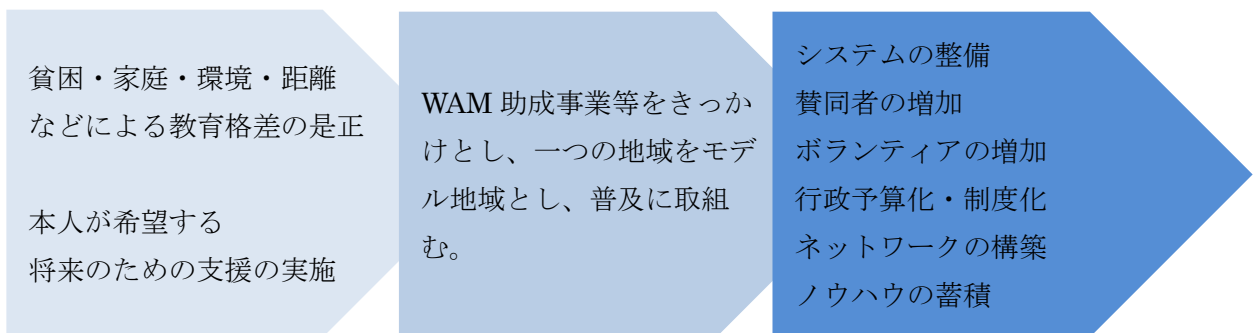
高校中退には、家庭の事業、経済的な事情が直接数値に現れており、その一因に親の社会との関わり、本人の社会との関わりがあると判断し、本年度は子どもたちの社会性向上に向けた取組も開始しました。

学校や家庭以外との関わりが少ない子どもたちは、一般的な家庭の子どもが経験する機会が圧倒的に少ないために、「マナー講座」や指導者側が意識し指導してきました。

学力向上及び、社会性の向上を図ることで、これまでは「道筋をつけること」に注力していましたが、本年度は「将来の社会に出たときの道筋」だけではなく「選択肢をより広げる」ことに注力しました。

時代の変化に伴い、「使える力」「対応できる力」が求められてきます。それらが教育の機会の不平等により子どもたちの未来が決められてしまわないように本事業を進めていきます。

### 教育機会の平等のために



### ICT 端末の活用

本年は新型コロナウイルス感染症の拡大により社会が大きく変動しました。教育分野では、「GIGA スクール構想」の前倒し整備も進められ、ICT を活用した遠隔授業なども進んでいます。

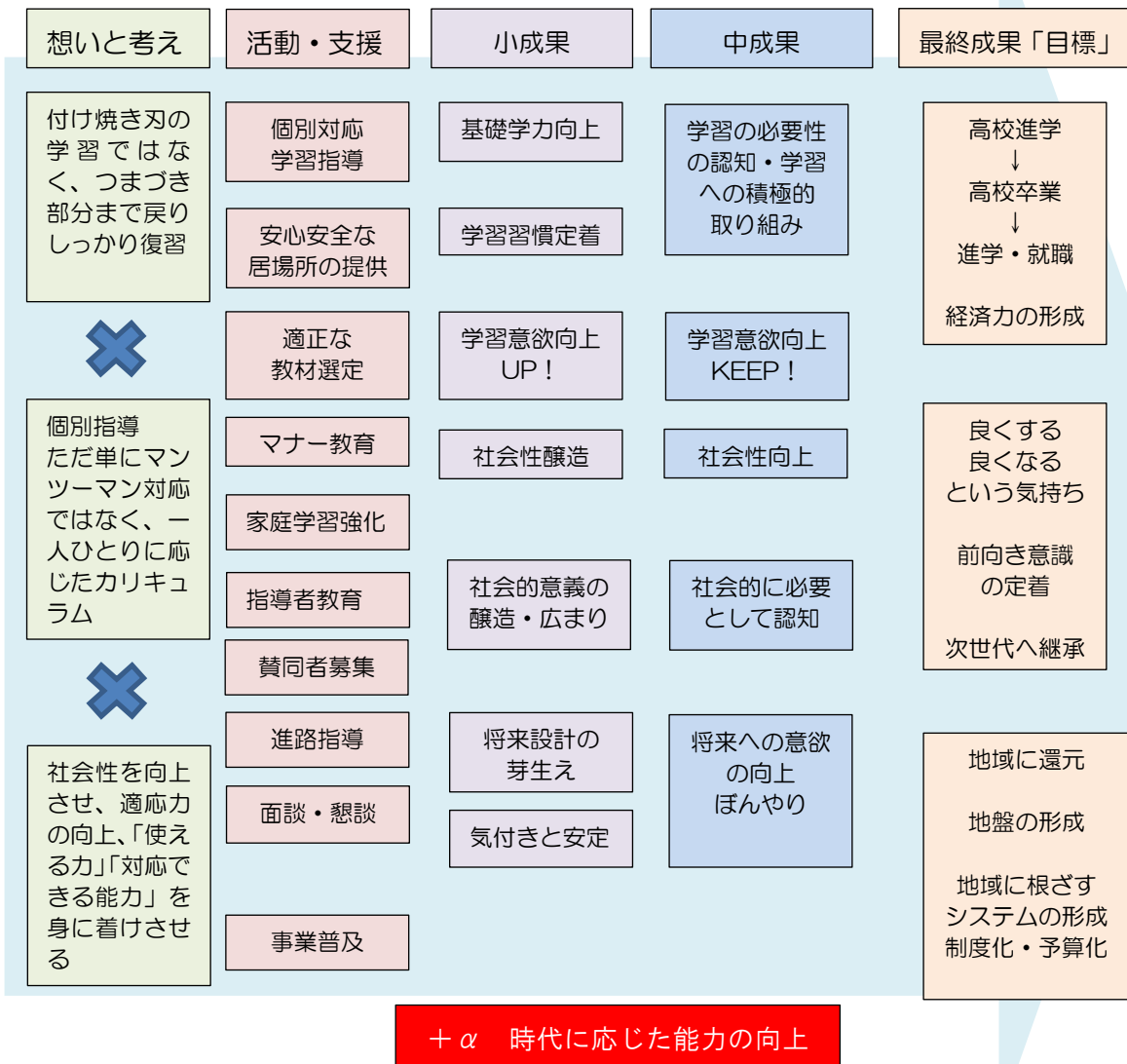
当会、本事業では取り組めていないものの、距離の格差の解決も踏まえて、有効な手段が今後必要になってきます。

学校で付与される端末の有効活用も今後様々な場面で活用が必要であると考えています。

行政との連携が不可欠ですが、当会として前向きに進めていきます。



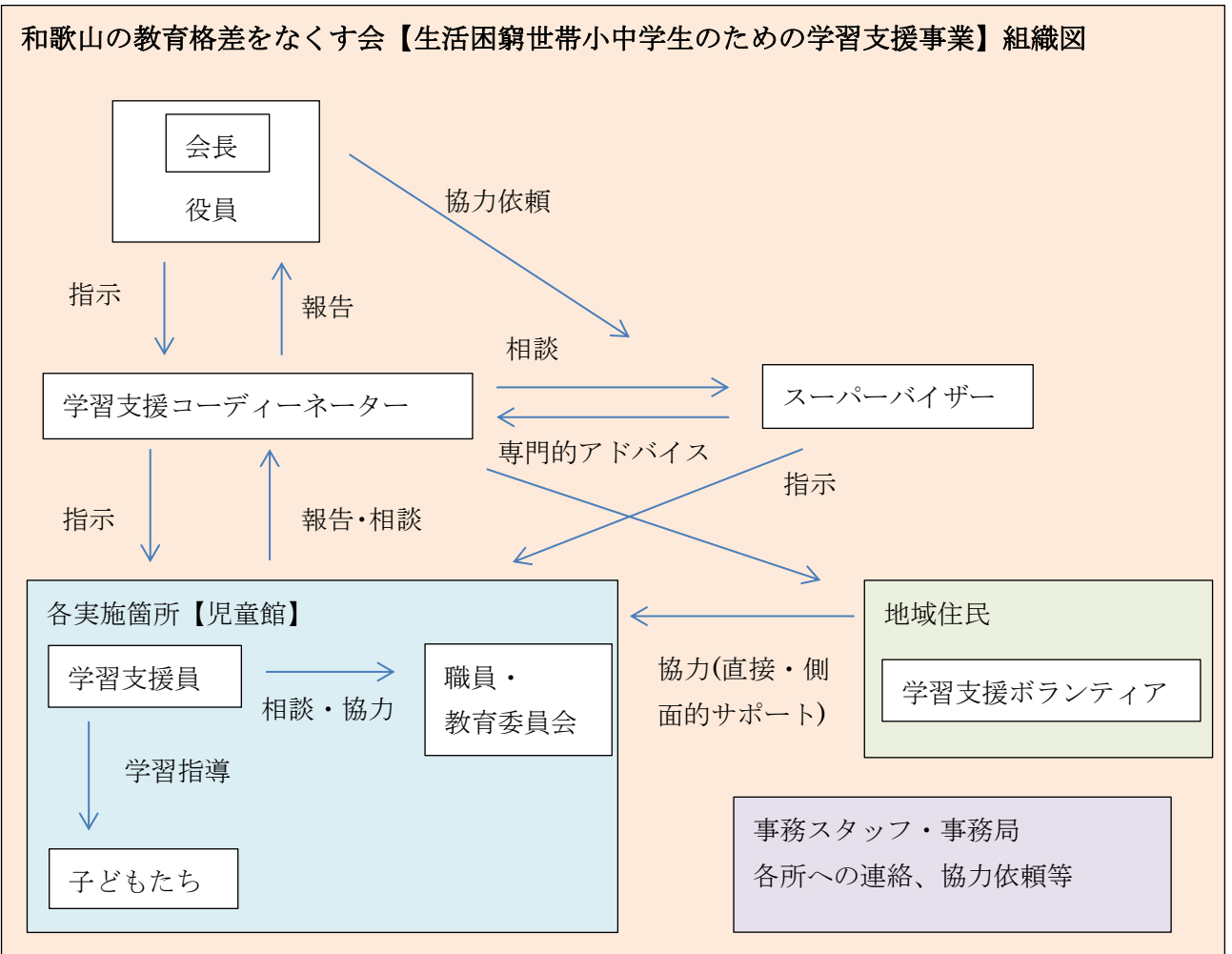
事業実施における「想い・考え」「目標」



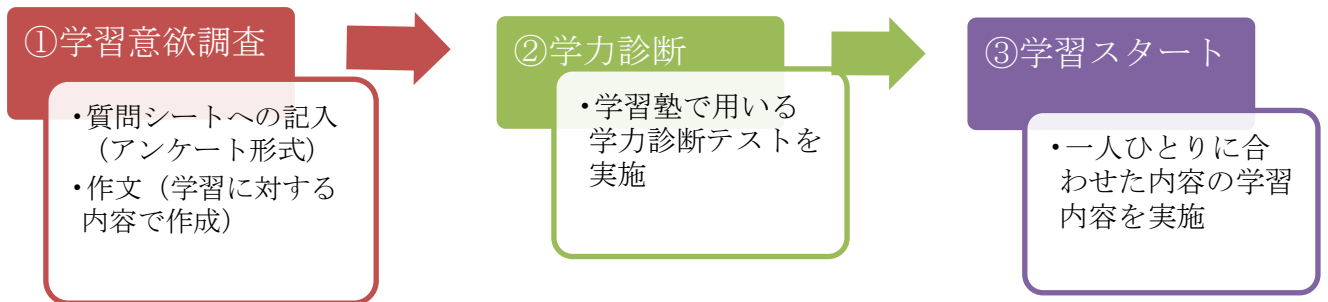
上記の想いや考えを念頭に、その地域毎の特性や、子ども本人・家庭が望む教育や将来の希望が叶うように、また外的要因に左右されないように当会は活動していきます。

#### 4、実施人員体制

- 学習支援コーディネーター 1名（学習塾経験者）
  - ・生徒の学力レベルの把握、個別カリキュラムの策定、カリキュラムの変更と修正、学習支援に当たるスタッフの指導、育成
- 学習支援員 10名（和歌山大学生・教職員経験者など）
  - ・生徒に対する学習支援
- 学習支援ボランティアスタッフ 42名 登録者
  - ・生徒に対する学習支援・安心安全の見守り活動等
- スーパーバイザー 1名（社会福祉士・臨床心理士・児童発達支援管理責任者）
  - ・子ども・保護者・学習支援員・学習支援員のケア
  - ・特殊な学習方法が必要な場合の指導方法の相談
- 事務スタッフ 1名
  - ・庶務
- 事務局 2名
  - ・庶務 ・連絡調整



## 5、事業実施内容



### (1) 学力を見極め一人ひとりのカリキュラムを作成

各実施場所では、当会が入る前まで「宿題指導」「定期テスト対策」を実施していました。しかし、根本的にこれまで自宅学習が行えていなかった子どもたちにとっては、付け焼刃的な学習となっており、学習のつまづきがあるまま、進級と繰り返してしまっているため、学校での学習進度のみならず、これまでの学習に対して理解できていない部分が多く見受けられました。

それらを解決するためにまず「①学習意欲の調査」を行いました。

この学習意欲調査では、1. 指導する側が子ども達の学習意欲を確認する為 2. 子どもたち本人が改めて自分の苦手意識や、どの部分がわかっていないかを確認する為 3. 子どもたちの状況や心境を知るために、学習支援員が会話をを行い子どもと学習支援員との距離を縮めるために実施しました。

#### カリキュラム作成の使用ツール

##### A. 質問シート

「得意」「不得意」「好き」「嫌い」「どの部分がわからない」「本事業に参加する目標」などを書きます。指導者側からすると子どもたちの学習の悩みは一樣に考えてしまいがちになってしまいますが、「書くこと」「聞くこと」で指導者側も、子どもたちも整理することが出来ると考えています。

##### B. 作文

「苦手教科について」「(勉強の) 頑張りたいことについて」「本事業参加することへの意気込み」などのタイトルで「質問シート」より子どもたちはより真剣に考え、深層心理をより深めるために実施しました。

C. 学力診断テスト

子ども自身の戻った単元より学習を実施、「どこまで戻った学習をするか」の指標とするために、3学年分戻った単元より実施しました。

カリキュラム作成のポイント

- ・学校での学習進度にとらわれず、「分からない部分まで戻る」ことを大事にし、そこから一歩ずつ積み上げる学習を実施するために実施しました。

実際子ども自身の学年より戻った学習を実施することで、「わかる」「出来る」という気持ちが「やる気」に代わるように「すらすら解ける」学年・単元まで戻った学習を実施しました。

- ・「子ども本人の意向を大事にしながら」、診断テストなどの学力診断ツールを用いて、また学習意欲や意識調査のために作文を書くことにより、子どもの学力レベルの把握し、学習を開始しました。

家庭的に問題を抱える子どもも参加しており、保護者・子ども会事務局と相談の上、学習の内容を決定し本人により応じた内容の学習方法を実施しました。

- ・子どもたちの学習の直接指導に当たる指導者を、和歌山大学の学生・教職員経験保持者等を学習支援員とし、子どもたちとの心の距離が近くなるように学習支援員を配置しました。

当日のモチベーション、子ども自身の学力や集中力等を加味し、当日の学習の実施枚数を調整し実施しました。

- ・学習カルテの利用

生徒情報の整理するために活用しました。

(住所などの基本情報や面談結果、テスト結果、アンケートや作文の結果をまとめたもの)

生徒ID	氏名	住所	学年	性別	学習状況
0001	山田 太郎	和歌山県和歌山市	小学3年	男	学習中
0002	田中 花子	和歌山県和歌山市	小学4年	女	学習中
0003	佐藤 健太	和歌山県和歌山市	小学5年	男	学習中
0004	鈴木 美咲	和歌山県和歌山市	小学6年	女	学習中
0005	高橋 誠也	和歌山県和歌山市	小学1年	男	学習中
0006	渡辺 真由	和歌山県和歌山市	小学2年	女	学習中
0007	小林 大輔	和歌山県和歌山市	小学3年	男	学習中
0008	中村 結衣	和歌山県和歌山市	小学4年	女	学習中
0009	山本 拓也	和歌山県和歌山市	小学5年	男	学習中
0010	水野 莉子	和歌山県和歌山市	小学6年	女	学習中

- ・保護者との面談

子どもの学力には保護者の影響が大きくあります。無関心な保護者も多い中、塾に通いたくても通わせることが出来ない状態で本事業に参加させている保護者も多くいました。

「家庭」「学校」「友達同士」「保護者の友人」など様々な悩みを抱える保護者もいて、希望される方に対して面談の機会を設け、学習に関することだけではなく子ども・保護者のモチベーションアップ&キープさせるために随時行ってきました。その内容をスタッフ間で共有し、学習支援のカリキュラムに反映させました。

1日目

- ・①質問シートへの記入
- ・子どもの苦手なポイント聞き出す。「質問チェックリストを子どもに記入させ、それに基づきつまづきのポイントを聞き出す」
- ・②作文
- ・「勉強に対する意欲」「勉強」等のテーマに基づいた作文作成

2日目

- ・③学力診断テスト
- ・実際にどの学年どの単元でつまづいているか確認

3日目

- ・④次の学年の診断テストを行います。

4日目

- ・⑤次の学年の診断テストを行います。

5日目

- ・⑥学習支援コーディネーターが診断した適性教材をスタート（時間がかかっている子どもは引き続き診断テスト）

6日目

- ・その子どもに応じた学習教材を使用し、カリキュラム通りに進めていく。

以降

- ・月に一度程度カリキュラムの見直しが必要かどうか検討
- ・随時、保護者・子どもとの面談

終了が近づいてきたら

- ・①「作文」で学習意欲の変化を確認
- ・②開始時に行う「学力診断」と同程度の問題を実施理解度の確認
- ・③アンケートによる効果の検証を行う。

(2) プリント教材の活用による指導しやすい環境づくり

学習指導を行う上で重要となるポイントの一つが学習教材です。

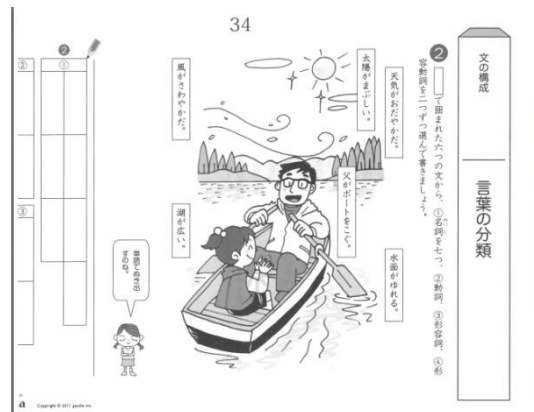
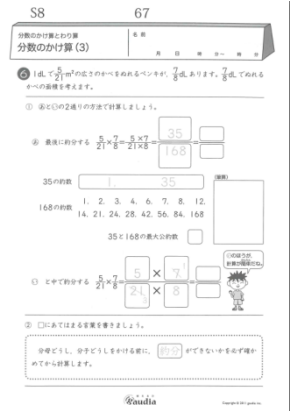
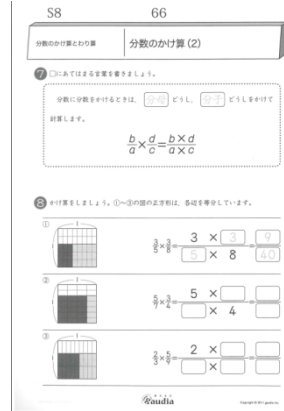
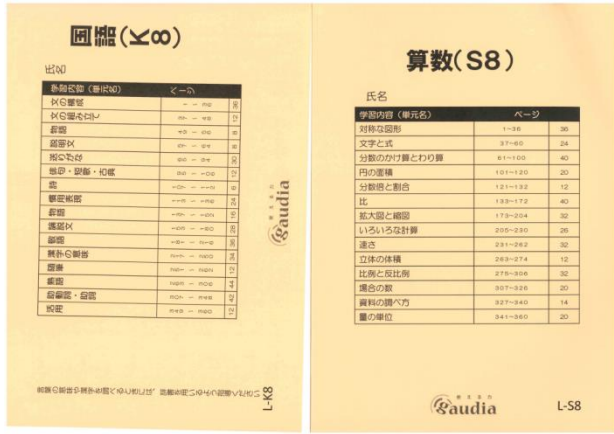
学習内容を「アウトプット」するプリント学習

個別カリキュラムに基づき、「つまづき」がある単元の学年から学習を開始し、子どもたちが「自ら考え」「自ら解く」ということを大事にし「使える力」を養っていきます。

そのために、「河合塾グループ」「日能研関東」が共同開発した「ガウディア」という教材を使用します。ガウディアは学習の基礎となる、「読み」「書き」「計算」を完結させる教材で、小学校学習要領の99%を網羅した教材となっております。加えて「理屈をわからせる」ことを主眼においた教材で、算数の場合「数」の概念から理解させていき、「 $2+3=?$ 」の問題に達するまで68ページ使用する教材です。

また、子どもたちのプライドを傷付けないために「5年生の算数」の問題集の場合「算数 S7」と表記し、今学習している学年をわかりづらくさせる工夫も取り入れられており、復習に適した教材となっております。

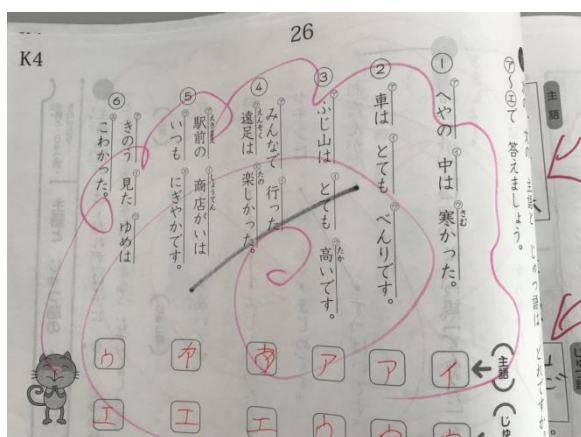
学習支援員目線でも、1枚ずつのプリント教材となっているため、指導員が前回の実施日と代わった場合でも、「どこから始めればいいのか？」がわかりやすくなっており、引継ぎが行いやすい教材となっております。



### (3) 特殊な指導方法が必要な子どもに対する対応

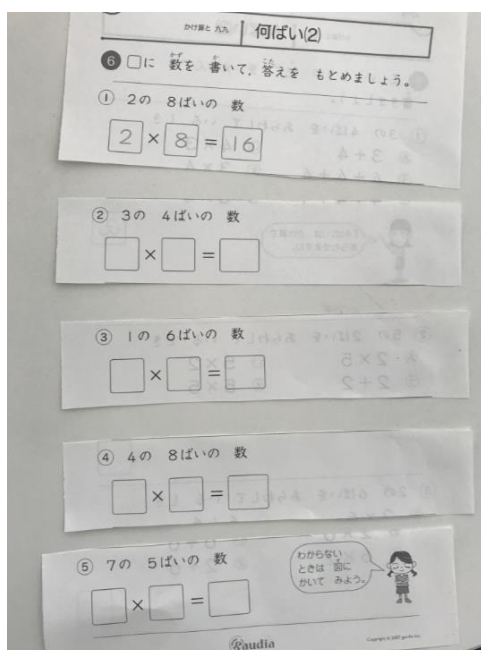
実施している中で、「何度説明しても飲み込めない」「厳しく指導してもすぐに他の参加者の邪魔をしてしまう」「同レベルの問題でもAの様なパターンなら解けるがBのパターンの問題に代わると解けない」など、「学習障害」と直接的に診断されている子どもや、あるいは診断はされていないグレーゾーン子どもも数名参加しておりました。

- ・スーパーバイザーの指導の元の指導方法や、勉強のツールの相談など  
(指導方法の一例紹介は後述)
- ・保護者との面談の実施 (対応していただける方のみ)
- ・子ども会・学校の先生との連携  
和歌山市委託職員の方や学校の先生と話し合い。



○多動性・不注意・衝動性 (ADHD) 障害  
気味の子どもの対応

今回は軽度でしたが、黒いえんぴつで書かせると1分も持たずに他の子どもの邪魔をしてしまうなどの児童には、いろいろな方法がありますが、今回はペン・えんぴつの色を変えてみる手法で取り組んでみたところ、黒えんぴつよりも比較的長くプリントに取り組むことができました。



○高機能自閉症 (や学習障害) の子どもへの対応として、よく用いられる方法ですが、視覚的に一度の多くの情報が入ると、混乱して集中力が削がれるため、計算も視覚に1問ずつ入れることで、解きやすくなるという手法を取り入れました。

←左は、ハサミで切っていますが、折り目で見えなくしたり、他の白い紙で隠したりして学習しています。

他にも字が大きくなってしまふ子どもには「四角の枠」を書くことでその中に収めるように記入できるようになったりと、視覚に訴えた手法をよく取り入れました。

不登校（不登校気味）、保護者深刻による発達障がいの子どもも通ってきています。

① 保護者・本人・職員さん申告による、不登校、不登校気味の子どもも通ってきています。

口頭でのヒアリングや普段の様子

A君 小5女子

事前に児童館館長より「感情表現が苦手で、泣き出してしまうことが多い。学校も出席率50%程度」と伺っていました。開始後、保護者と面談を実施しましたが、「子どもとの話し合いなどはしておらず、家庭での会話も少ない」と聞いていました。

継続的に学習会には参加していました。言葉数は少なかったですが、大学生の支援員とは打ち解け徐々に会にもなじんできました。

学校の出席頻度は大きく変化はないようですが、学習会の際には宿題の質問をするなど自発的な行動も見られるようになり児童館スタッフからも喜びの声をいただきました。

Bさん 中2男子

小学校の頃の参加者で、当時は活発で友達同士のグループの真ん中にいる子どもでしたが、思春期もありなかなか大人と打ち解けにくくなっていました。中学校2年生になり、学校の先生とうまくいかないことが続いたようで、学校をさぼりがちになっていました。非行に走るタイプではないと判断していましたが、女性の支援員の指導には反抗し難しい部分が多くありました。

男性支援員が指導に当たり、面談も繰り返すことで少しずつ改善が見られています。学習に対しては後ろ向きです。

Cさん 小6女子

平成30年度参加者のお姉ちゃん、昨年度より学校に行きにくい期間が続いていたようです。保護者の方も開始当時から相談のお電話も頂いていました。「家庭環境の問題もあるかもしれない」ことを示唆されていたため、コーディネーターを中心に話を受けていました。対応は女性指導員をつけ学習時間以外にも面談などを実施していました。

本人からは「学校の友達とのことがきっかけ」と漏らした言葉を聞き取りました。3学期に入り対象の友達との関係性がもとにもどり、学校に通いやすくなったと伺っています。

児童館から保護者にその件内容を共有していただき、まだ学校に行きにくい日もあるようですが、大きく改善が見られました。



②保護者申告による、発達障がい・学習障がい等の子どもも通って来ています。

Dくん君 小4男子

平成30年度からの参加者で多動性の発達障害（ADHD）と学習障害（LD）がある子供でした。学校では通常学級と支援学級を教科により分けて通っているようでした。

症状としては、空間内に他の人がいると席をたってしまう。他の子どもの邪魔をしてしまうことが多く見られました。視覚からの情報を制限し、問題数を1問ずつ、壁の際の席で学習するなどの学習を行いました。

保護者から「昨年の事業が未実施であったことが大変心細かった。コロナの影響もあり相談する場所が減っている」といただいていた。

1年前よりも体も大きくなっていて、指導への反発も見られましたが、家庭・児童館と連携を取りながら進めていました。

Eさん 中1男子（保護者申告による軽度のLD）

保護者さんが訪れ面談を実施しました。「軽度の学習障害で、桁数が多い問題、国語の長文問題の理解力がひくい。というかほとんど理解できていない」と情報を頂いていました。

スーパーバイザーと相談、学校教員OBの方にも相談し、学力診断などの傾向から、情報量が多くなると目と手が止まってしまうことが多い（計算問題や分数は一定理解できている）

コンプレックスの増大にならないように、配慮し目に入る量を減らすことを工夫しました。これまで本事業でも多く取り入れた例を導入しました。

保護者からも「自宅での学習は難しそうであるが、この学習会には何にもいわずに向かえている。成績は右肩上がりとはいかないが改善がみられているように感じている」といただいています。

小5女子（障がいの申告はなし）

「勉強が嫌い。図形とか、漢字とかなんで使わなあかんの？」と指導員によく漏らしていました。

学力診断テストでは、計算（分数・小数）文章題、国語の読み取りは理解度高いですが、図形問題は、解いた形跡、漢字は「部首とつくり」が当該学年以下の部分でも正答率が非常に低くなっていました。

漢字は部首それぞれの意味や形の理解と形の認知をくり返し行うこと。

図形は、それぞれの点・線・面を分けて考えるなど、できる範囲からの学習を実施しています。

苦手意識の気持ちの問題も多くあったと思いますが、診断時に比べ同レベルの問題の正答率は少し上がっていました。

○不登校（不登校気味）や発達障がい・学習障がいがある子どもへの対応

スーパーバイザー指導のもと、「積極的」「献身的」を心がけ対応しました。子どもの心情として、放置されることが一番つらいこと、嫌な思い出になるので、この部分は支援員に意識させ、本事業に臨みました。

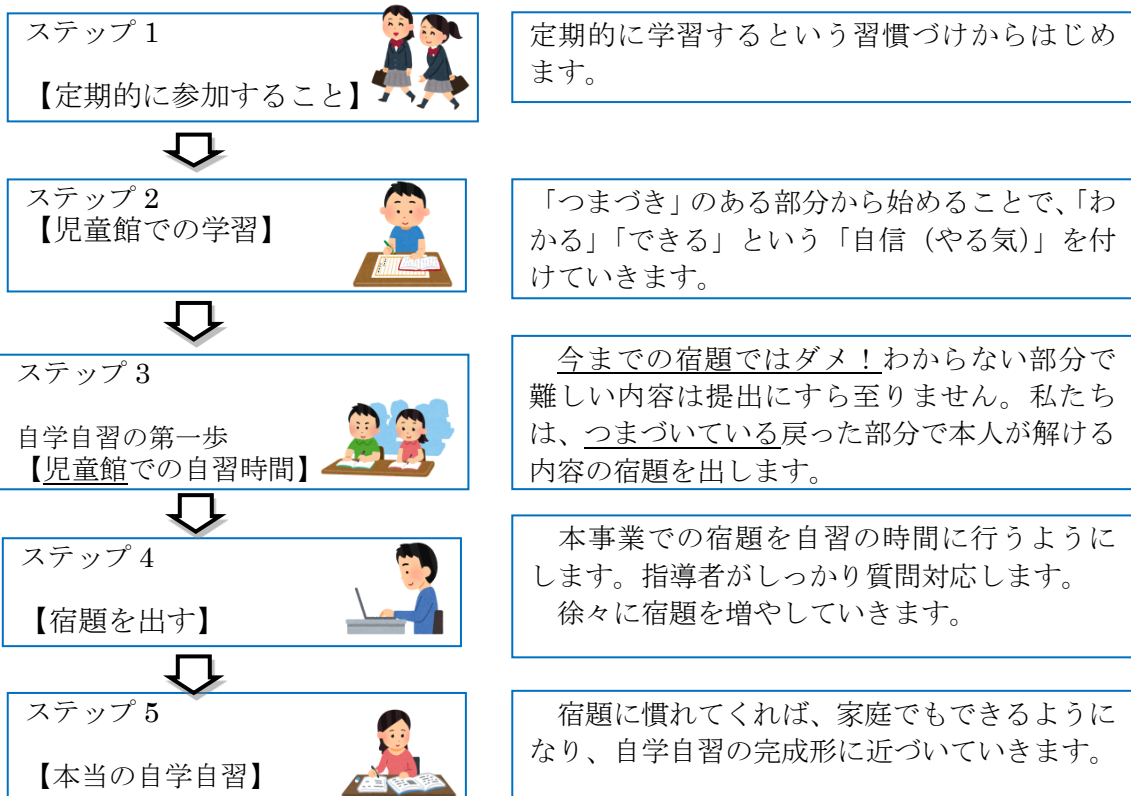
工夫を絶やさず、コミュニケーションを大事にして支援しました。

#### (4) 自学自習のきっかけづくり（学習習慣の形成）

当会では自学自習のクセ付けはスモールステップで、行ってきております。

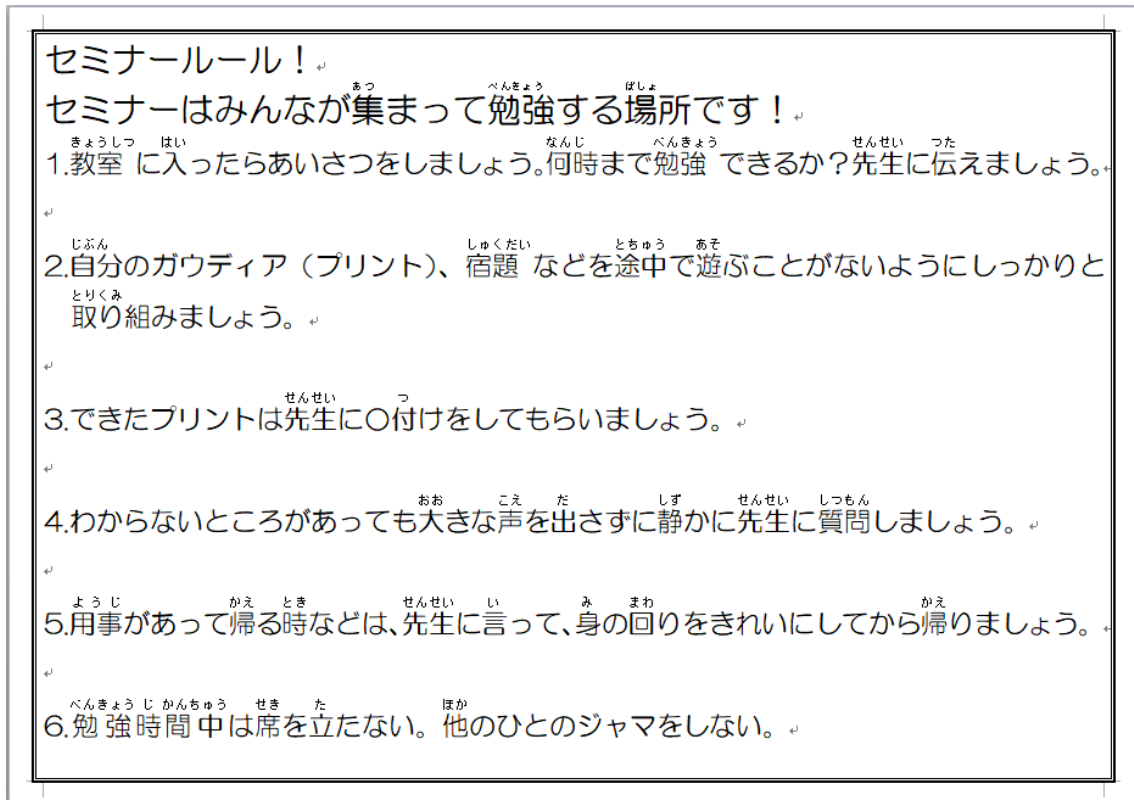
#### ★ 学習習慣の形成【5ステップ】

**私たちの工夫！** スモールステップで学習習慣形成を行います。



#### その他の工夫：

- ・子どもには学習支援の実施時間内の好きな時間に参加出来るようにしました。
- ・ある程度の指導はする、無理強いをせず前向きに取り組めるように、「自分から机に向かう事」に重点をおき指導しました。
- ・子どものモチベーションを維持するために目標を立ててもらったりなど、各教室でルールづくりをしました。（次ページに掲載）
- ・中学3年生に関しては、受験を控えているため、中3特別学習会を実施したことや、特に自宅でも学習ができるように指示や支援行いました。



※児童館での学習ルール（上記箇所は「セミナー」と呼んでいました。）

- 本年度注力した部分の1つで、社会性向上のため取り組みとして、以前より利用している「学習ルール」を徹底しました。

★学習支援活動を実施して気づいたポイント

小中学生の子どもたちは、言葉に敏感です。「習っていない」「聞いたこと無い」「（言葉の）意味がわからない」など先生（学習支援員）が困るポイントの一つです。

そこで以前より利用している「学習ルール」を活用し、日々「ルール」「マナー」「モラル」という単語を活用し取り組み、耳馴染みのある言葉に変えるようにしました。

- ①ルール : 比較的学校などでも、遊びやスポーツの中で子どもたち自身も使う言葉なので、理解しやすい言葉でした。  
この学習ルールを中心に指導しました。
- ②マナー : 子どもたちは聞いたことがあるけど、よくわからない言葉になっていると感じました。ポジティブな言葉として「マナーがいいとかっこいいよ！」  
ネガティブな言葉として「マナーを守らないと嫌われるよ！」などケースに応じて利用しました。
- ③モラル : 小学生の子どもたちは「道徳」の方が耳馴染みのある言葉で、多様はしませんでした。なにのためのモラル？を理解し、指導者自身も改めて見直し指導にあたりました。

(5) 進路指導相談

中学3年生は志望校進学のため、通常の受験勉強に加え、意欲が維持できるようなこれまでの経験に基づき助言や指導を行いました。中学1・2年生に対しても早い時期に志望校への意欲を持つようにヒアリングをし、主要科目の苦手分野の割合を増やし指導しました。

**平成30年度 和歌山県立高等学校 学校別・学科別募集定員**

〔全日制の課程〕				〔定時制の課程〕			
学校名	学科名(コース名等)	学級数	定員	学校名	学科名(コース名等)	学級数	定員
備前	普通科	4	160	海	普通科(海南校舎)	4	160
	普通科(県立中)	1	40		商業	商業理学科	1
紀北工	機械科	2	80	(美里分校)	普通科(大成校舎)	2	80
	電気科	1	40		普通科	普通科	1
紀北農	システム化学科	1	40	箕	普通科(普通)	2	80
	生産流通科	1	40		普通科(スゴーフ)	2	80
笠田	施設園芸科	1	40	有田中央	情報経営科	1	40
	環境工学科	1	40		機械科	1	40
粉南	普通科	3	120	(清水分校)	総合学科(総合)	3	120
	総合ビジネス科	1	40		総合学科(福祉)	1	40
郡	情報処理科	1	40	紀久	普通科	5	200
	普通科	5	200		普通科	5	200
貴志川	理数科	1	40	(中津分校)	総合科学科	1	40
	普通科	7	280		普通科	1	40
和歌山北	国際科	1	40	紀央	普通科	4	160
	普通科	4	160		工業技術科	1	40
和歌山北	人間科学科	1	40	南	普通科	3	120
	普通科(北校舎)	7	280		普通科	3	120
和歌山北	普通科(西校舎)	2	80	(龍神分校)	農と農園科	3	120
	スポーツ健康科学科	2	80		普通科	1	40
和歌山	総合学科	4	160	田	普通科	6	240
	普通科	6	240		自然科学科	2	80
向陽	普通科	2	80	田辺工業	機械科	2	80
	電機科学科	2	80		電気電子科	1	40
桐	普通科	3	120	神	情報システム科	1	40
	普通科(県立中)	2	80		普通科	3	120
和歌山東	数理科学科	2	80	熊	経営科学科	3	120
	普通科	6	240		看護科	1	40
嵐	普通科	6	240	伊本台南	総合学科	4	160
	国際交流科	1	40		普通科	3	120
和歌山	普通科	6	240				
	機械科	2	80				
				合計			
				16			
				575			

〔単位制高等学校である伊都中央、きのくに青雲及び南紀の各高等学校については、定員は40人であるが、転・編入生を受け入れるため、各学科の募集定員は、昼間定時制35人、夜間定時制30人とする。〕

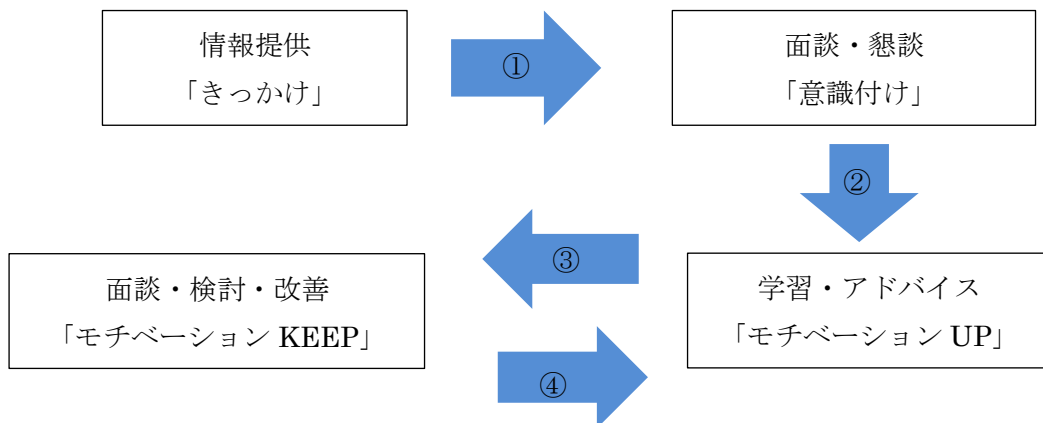
※和歌山県教育委員会ページより

★ポイント

志望校の学校説明会参加を促し、意欲を高めさせました。

通学経路などを確認すること、外観や雰囲気を知ること、意欲が高まります。通学する中学校からの啓発もありますが、当会では念押しの意味も踏まえ、児童館と連携して参加を促しました。

また、子どもの学習（進路や成績）に関心の低い保護者には、少しずつ理解を深めるために、直接あるいは児童館職員を通じて日々の状況を共有し、進路に向けての意識改善をおこないました。



## (6) 他都市、他地域への普及活動の実施

開始から5年経過し、他事業も他自治体の方も、学習支援活動について問い合わせも頂いています。和歌山県内では問題意識は高いが、予算がハードルになっています。

本事業の特徴や特性を理解はしていただいています。特に実施にあたっての教材や「つまづきのある部分まで戻る」学習方法や進め方など、個別最適化に向けた取り組みなどを紹介しています。

また、社会性向上のためのイベントや取組も紹介し、高い関心を持って頂きました。

### ★他自治体への普及 事例

#### ①和歌山県湯浅町

平成29年度より、和歌山県湯浅町において今回の助成金とは別に、湯浅町として学習支援を始める事ができました。当会のノウハウの提供・学習方法を取り入れ湯浅町内2箇所での学習支援事業を実施しております。

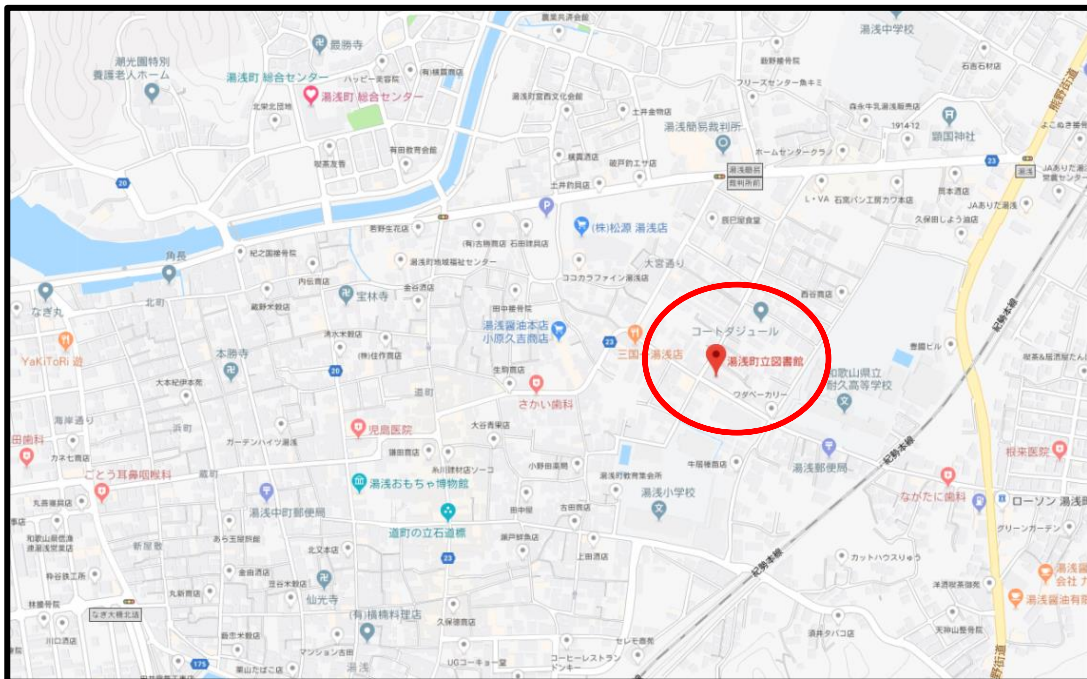
夏休み前より実施開始し1学年10名募集し3月現在43名登録されています。

実施箇所 湯浅町立図書館

〒643-0004 和歌山県有田郡湯浅町湯浅1982

毎週水・金曜日 16:30~18:30

(9月より1箇所を集約されました。)



さんかしゃほしろう

## 参加者募集

学校の勉強で、わからないところを言い出せずにそのままにいませんか？

「わいわいルーム」は、わからないところを、学年に関係なく、わからなところまで戻って、わかるまで学ぶ教室です。



「わいわいルーム」に参加しませんか？

開催日時：毎週水曜日 15:00～17:00  
 土曜日 16:30～18:30 (週2回)  
 開始日：平成29年 月 日( )～  
 開催場所：湯浅町総合センター、湯浅駅前各目的広場  
 ※参加決定後にお知らせします。

参加費：無料  
 参加定員：小学生各学年10人(定員をこえた場合は別に抽選します)  
 その他：参加については、担任の先生にご相談ください。

注意事項：  
 ※1 わからないところまで戻って学習する教室です。  
 ※2 教室への送迎はありません。  
 ※3 教室までの途中での事故等に対する責任は負いかねません。  
 ※4 学習教材は教室で用意します。

お問い合わせ先：湯浅町教育委員会 生涯学習係  
 (TEL63-1111)

---

まじりとり

### 申し込み書

・わいわいルームに申し込みます

お名前  男・女   電話番号

学校名  小学校  年  組

保護者名

**申込締切は 月 日 ( ) です!!**

当会は学習システムを提供し、学習支援にあたるスタッフは町内の退職教職員の方々や地域ボランティアの方や、近隣の高校にも協力依頼をかけ学習支援に参加する子どもと年齢の近い高校生も指導に入っています。

高校生も教職員の先生方に教えてもらいながら月に数回ボランティアとして参加しています。

聞き取りによると、  
 「将来学校の先生になりたいから、今のうちから勉強したい。」と指導のする高校生側にもメリットのある事業となっています。

退職教員の方	高校生ボランティア
9名	5名 (不定期参加)

## わいわいルーム 説明会



和歌山の教育格差をなくす会は、和歌山県内で5ヶ所で学習支援事業を行っております。新たに、ここ湯浅町でも教育委員会様のご協力を得て開催する運びとなりました。  
 学習意欲のある小学生を対象に、湯浅町内の有志の先生方が指導員として学習のサポートを行います。

★保護者説明会を実施しました。塾に行かせられない家庭を中心に参加され、復習の意味、将来に向けての説明を行いました。

現在も、システムの改善などボランティア募集など、教育委員会を中心に連携をとり、継続に向けた支援を続けています。

形態は別になりますが、中学生対象のICTを活用した学習支援事業も新たにスタートしました。

②和歌山市（県庁所在地）

2017年度から実施する本事業をモデルとして、2020年度より「和歌山市子どもの学習・生活支援事業業務」という形で、同様の事業を開始しました。中高生を対象としているため、多少形態は違いますが同様の事業となっています。

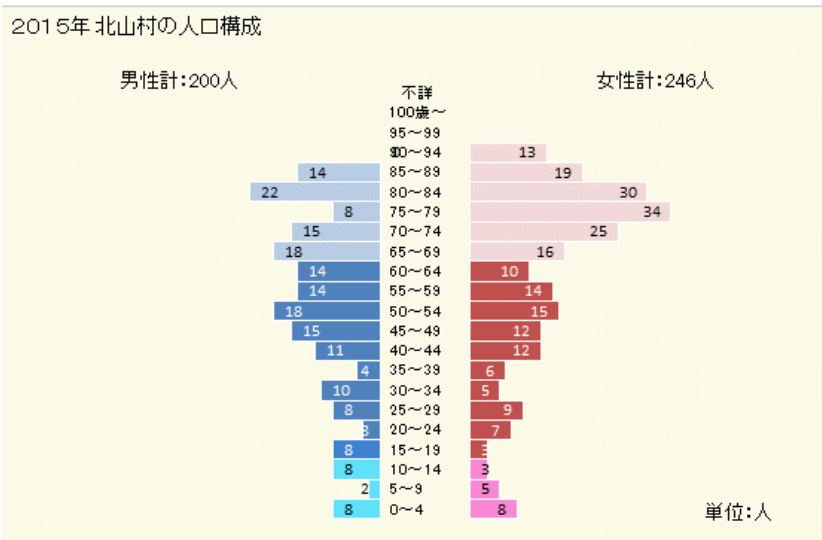
現在は1か所で対象者も少なくなっていますが、3～5年計画で対象者を増やした事業としていく見込みとされています。

③和歌山県北山村（和歌山市から車で3時間・新宮市（最寄り駅）から車で1時間）

2018年度より当会の実施とは異なりますが、連携団体（新宮市ボランティア団体）の代表を務める方が、小中学生を対象として、学習支援事業を行っています。当会とほぼ同じシステムで実施している事業となっていて、距離による教育格差是正のために新宮市、新宮市近辺の元学校教員の方が週2回子どもたちの学習をサポートしています。

また、本年度当会が実施した子ども向け「マナー講座」に関心を持っていただき、2019年7月に実施が決定しています。

この北山村での学習支援、マナー講座が、急激な過疎化、超高齢化社会が進む地域でのモデル事業となるように当会もサポートしていきます。



前項の普及とは、少し外れますが、このノウハウを活用して当会会長の角野が代表取締役を務める株式会社KEGキャリア・アカデミーでは、平成29年度より大阪市西淀川区にて中学生を対象に学習支援事業を受託し、運営しています。

※平成30年度は西淀川区に加え、旭区、鶴見区、大正区、此花区、都島区、計6区で学習支援事業を実施しております。生徒数は西淀川区(60名)、旭区(80名)、鶴見区(60名)、大正区(30名)、此花区(30名)、都島区(150名)です。

平成31年度西淀川区 民間事業者を活用した基礎学力支援事業

## に~よん個別復習塾 受講生募集!

タブレットを使用した映像学習とプリント学習で苦手を克服!  
個別の学習方法・学習進度で勉強するから安心!

今話題の映像学習 で学べる!

一人ひとりに作成するカリキュラムで個別学習 + 映像学習 × プリント学習 = わかる! できる! を感じてやる気UP!

一人ひとりのカリキュラム通りに進むから、小学校の学習範囲の復習・学習から受験対策・進学に向けた学習が可能!

**実質負担0円!** 塾代助成カード利用時 区内の中学生ならどちらの会場でも通えます

**西淀川区民ホール**

【場 所】第3・4会議室  
【実施期間】2019年4月1日～2020年3月31日  
【実 施 日】毎週月曜日【定 員】30名(先着順)

学習科目 数学・英語・国語(選択可) 実 施 料 18:00～21:00

**西淀川区民会館(エルモ西淀川)**

【場 所】第1・2会議室  
【実施期間】2019年4月1日～2020年3月31日  
【実 施 日】毎週木曜日【定 員】30名(先着順)

学習科目 数学・英語・国語(選択可) 実 施 料 月額10,000円(大阪市塾代助成カード利用可能)

本事業は、西淀川区役所企画課と株式会社KEGキャリア・アカデミーとの協定により、基礎学力の定着、学習習慣の形成及び子どもの習熟率に成した学力向上を図るため、区民ホール・区民会館で課外学習を実施する事業です。実施場所を塾事業者へ無償提供する事で、受講料のコストダウンを図っています。

**こんな中学生にオススメ!**

- ① 学校での授業がわからない
- ② 今までの勉強を復習したい
- ③ 楽しく勉強がしたい

■お申し込み・お問い合わせはお電話・メール・お申込みフォームで

実施事業者 株式会社KEGキャリア・アカデミー MAILでのお申込み [info@k-e-g.co.jp](mailto:info@k-e-g.co.jp) お申込みフォームから

お問合せ 06-6344-0039 13:00～20:00

## 花まる個別復習塾

受講生を募集します! HPIはこちら

タブレットを使用した映像と基礎学習プリントで苦手を克服!

ゲーム感覚で学べるアニメーション映像を使用

一人ひとりに作成するカリキュラムで個別学習 + 映像学習 × プリント学習 = わかる! できる! を感じてやる気UP!

ハイブリッド学習

一人ひとりのカリキュラムだから、小学校の学習範囲の復習から受験対策、進学に向けた学習が可能!!

**こんな中学生にオススメ!**

- ① 今までの勉強を復習したい
- ② 楽しく勉強がしたい

**対象** 此花区在住の中学1年生～3年生

**入塾前・相談可能! 入塾後もフォロー体制万全!**

実施期間▶2019年4月2日～2020年3月31日  
場 所▶此花区民一休ホール 3階第4会議室 (此花区四貫島1-1-1B)  
実 施 日▶毎週火曜日・金曜日  
時 間▶18:30～21:00の間で希望の時間帯を作成します  
学 習 科 目▶数学・国語・英語(選択可)  
定 員▶30名(先着順)  
受 講 料▶月額10,000円 (大阪市塾代助成カード利用時、実質無料※詳しくは裏面参照)

本事業は、此花区役所企画課(教育支援 領域)と株式会社KEGキャリア・アカデミーとの協定により、基礎学力の定着、学習習慣の形成及び子どもの習熟率に成した学力向上を図るため、区民ホール・区民会館で課外学習を実施する事業です。実施場所を塾事業者へ無償提供する事で、受講料のコストダウンを図っています。

■お申し込み・お問い合わせはお電話・メール・お申込みフォームで

実施事業者 株式会社KEGキャリア・アカデミー MAILでのお申込み [info@k-e-g.co.jp](mailto:info@k-e-g.co.jp) お申込みフォームから

お問合せ 06-6344-0039 13:00～20:00

### ※西淀川と此花区の生徒募集チラシ

上記の様に大規模都市圏では行政資金も潤沢で、子どもの教育に当てられる資金が大きくなります。しかし、和歌山の様な地方都市、更に和歌山県南部は全体的に過疎が進み超高齢化地域、超高齢化社会となっており、子どもの教育に当てられる資金が少なく企業も少ないため、教育格差が深刻化していると感じています。

現在でも学校の統廃合が進み、貧困に加え、学校外教育を受けられる機会の距離の壁が深刻化しており、塾まで送迎で片道1時間以上といった大きな格差となっております。

当会にはそういった、問い合わせも増えていて、次年度に向けある自治体では公的施設で塾の開講に向けた取り組みの相談も受けております。

当会は、さらに県内の教育格差の是正に向けて支援活動を実施していきます。



6. 令和2年度 WAM 事業実施結果

参加登録者数：以下の通り

小学1・2年生	10名
小学3・4年生	25名
小学5・6年生	17名
<b>小学生計</b>	<b>52名</b>
中学1年生	11名
中学2年生	6名
中学3年生	8名
<b>中学生計</b>	<b>25名</b>

(1) 中学3年生の進学状況

事業実施3ヶ所で8名が学習支援に参加し下記高等学校に進学いたしました。

和歌山県立和歌山商業高等学校	1名
和歌山県立和歌山北高等学校	2名
和歌山県立和歌山東高等学校	1名
和歌山市立和歌山高等学校	3名
和歌山県立星林高校	1名

(2) 学力診断テスト

学習支援開始時の学力診断テストは学習のつまづきを見極めるために実施。

学習支援終了前の学力診断テストはつまづきのある単元が解けるようになっていくか確認するための実施。

開始時の学力診断テスト参加者 小学生 52名 中学生 25名計 77名

結果：3学年分学習学年を下げた単元から躓いている子ども 約5%  
 2学年分学習学年を下げた単元から躓いている子ども 約15%  
 1学年分学習学年を下げた単元から躓いている子ども 約80%

※診断テストに基づき、つまづきのある学年から学習開始。

学年通りの学習開始 9名（診断テスト未実施子ども含む）

■学習支援終了時：診断テスト実施 小学生 47名 中学生 25名実施 計 72名

結果：つまずきの見つかった単元までの学力が取り戻せた子ども  
89%（診断テストが実施出来た子どものみ）

- （・開始時の診断テストの未実施は、小学校1年生2年生は学年の単元より学習を開始したため。また、極端に学力診断テストを嫌がった子どもには実施しておりません。  
・終了時の診断テストの未実施は、欠席のため実施出来ておりません。）

### (3) 意識調査（作文・ヒアリング）

#### 作文

□開始時：作文35枚回収（小学1年生（2年生一部）は文章が書けなかったため未実施）

■終了時：作文27名分回収（欠席が多い生徒については診断テストを優先。）

□開始時：「頑張りたい。」「勉強が嫌いなので好きになりたい」  
「テストの点数を上げたい。」

昨年から参加している子どもは「頑張って毎回来たい」といった内容が多くありました。

■終了時：「来年も続けてほしい」「マナー講座が楽しかった。」

「高校に進学できてよかった。」「

などの前向きな気持や、これからも頑張りたい意欲そして子ども自身の達成感が感じられました。

以下作文原文

20 × 10 = 200

			が	す	か	た	わ				セ
			ん	き	か	た	た				ミ
			ぼ	に	た	い	し				ナ
			っ	な	か	で	は				ー
			て	り	か	だ	、				で
			い	た	か	が	セ				が
			ま	り	か	ら	ミ				ん
				か	ら	、	カ				ほ
				ら	ら	あ	ー				り
				り	き	た	で				た
				、	ち	し	国				い
				は	り	は	語				事
				た	た	、	と				
				さ	さ	セ	社				
				よ	よ	ミ	会				
				う	う	ナ	を				
				か	か	が	か				
				わ	わ	や	ん				
				い	い	り	ほ				
				ま	ま	た	り				

20 × 10

20 × 10 = 200

				よ	と		え	な	か
				う	こ	ほ	て	い	け
				に	ろ	か	九	か	ざ
				、	か	に	九	ら	ん
				か	あ	も	を	こ	の
				人	っ	ひ	い	の	九
				ば	た	っ	、	べ	九
				り	げ	さ	う	人	の
				た	ど	さ	ず	キ	ワ
				い	い	人	に	エ	の
				で	ま	の	な	う	だ
				す	た	く	り	で	ん
					や	り	下	九	を
					っ	か	り	九	ま
						ま	り	を	だ
						ち	か	を	お
						か	ま	せ	ほ
						え	か	ん	え
						な	か	が	れ
						い	う	お	て

20 × 10



(4) ヒアリング

- 開始時：「勉強だけだと来ない」「コロナで進学不安」「勉強なんか意味あるの？」  
「学習会が復活してよかった」などの意見が多かったです。
- 終了前：「コロナで少なかったけどよかった」「またこの学習会来たい」  
その中でも「引き続き参加したい」という意見が多くありました。

(5) アンケート結果

①参加した子ども：77名中53名回答（回答率68%）

実施項目：

実施項目	これまで解けなかった問題が解けるようになったか。							
	勉強することが以前よりも楽しくなったか。							
	学校の勉強がわかりやすくなった。							
	勉強会にまた参加したい。							
	質問がしやすく楽しく勉強ができた。							
	自学自習をしたい。							
平均値	とても満足	60%	満足	30%	やや不満	7%	不満	3%

②学習支援員：登録者名のうち22名回答（回答率42%）ボランティア含む

実施項目	子どもからの学習内容について質問が増えたか。							
	家や家族の事を話してくれるようになった。							
	子どもの学習意欲が見られた。							
	子どもとの距離は近づいたか。							
	子どもとの信頼関係が気づけているか。							
	子どもへの関わり方が変わった。（記入式）							
	子どもから学んだことはなにか。（記入式）							
平均値	とても満足	86%	満足	14%	やや不満	0%	不満	0%

- 記入式一例文：●コロナ禍に子どもたちへの学習面サポートは不安もあり、大変な部分も多くありましたが、元気な子どもたちと一緒に勉強できて良かったです。
- 大学生活の貴重な経験になりました。将来に活かしていきたいです。
- 今年は物理的な距離が取れない分、大変な部分もありましたが、子どもたちはいつもニコニコ楽しそうに来てくれました。活動が続く限り参加させていただきたいです。

継続的に実施する場合は是非参加したいです。

- B. 子どもたちの勉強・学習についてすごく不安がありました。新型コロナウイルスの件もあり、感染予防や意味のある学習についていろいろ相談させていただきました。

頭の中で無理だと思っけていても、実際にやってみるとすぐにできて、子どもたちも最初は難しく考えていても毎回になると自然にできること、ルール化すると子どもたち同士で率先して実施してくれることに気が付きました。

思春期、反抗期で難しい子どもたちも、回を重ねるごとに自分もそのころの気持ちになれたことがすごく楽しかったです。

いい先生になれたかどうかはわかりませんが、将来的にもすごくいい経験になったと感じています。

- C. 「いつも通り」が通用しないことが多くありました。それでも子どもたちは勉強にきているので、私もしっかり対応しなくちゃいけないという気持ちが強くなりました。事務局さんもコーディネーターの先生も対応や方策についてしっかり考えていただき、すごく勉強になりました。

様々な部分でご迷惑をおかけしたかもしれませんが、ぜひ次回もある場合は参加したいです。

## 8. 見えてきた課題

(継続的かつ増大しています。)

活動を行う中で増えていく課題と、教育に回らない予算。が最大の課題となっています。

特に

### ①過疎化による需要の拡大と予算不足

和歌山県などの地方では、県庁所在地でも人口の社会減、自然減に加えて、高齢化が顕著です。となると高齢者福祉に予算が回り、負のスパイラルになっています。

いたるところで商業が衰退し、塾の数も減っています。経済的な理由に加えて、距離の壁が大きくなっています。

子ども優遇策ではなく、最低限の予算で学習の機会や権利を与えることが必要だと考えます。

### ②需要の多様化と求められ質の向上

当会でも平成 28 年度より開始時は、各家庭や実施地域から無償であることを感謝されてきました。しかしながら、徐々に実施内容についての追加の要望も増

えてきました。今でも無償であることは感謝されていますが、学習のニーズも増えてきています。時間や回数を増やすことや、極端な例では、「無償で家庭教師をしてくれないか」との要望もありました。週 2 回の実施であるため、国・算（数）・英を基本としていますが、理科・社会の要望も年々増加傾向です。対応できる範囲はノウハウの蓄積となっています。この事例も活かして他の自治体への広報活動も進めています。

また、外国人家庭も増えてきており、日本語がままならい保護者の子どもも多くいると声をいただきます。ボランティアだけでは限界も近くなっています。

### ③小学生の学習

学習のつまづきは、「早い学年から」「早い段階から」解消していくことが重要です。しかしながら、家庭での学習習慣がない子どもは、家庭学習が出来ている子どもに比べて圧倒的に学習量が足りていません。基礎学力がない（九九や読み書き苦手、出来ない）と学年が進めば進むほど「学校では補いきれない」ようになってきます。現状でも、「大学で、高校の内容がわかっていない」「高校で、中学の内容がわかっていない」「中学で、小学校の内容がわかっていない」と連鎖となっており、各セクターでつまづきを解消できないまま、社会に出ているとメディアなどでも取り上げられています。

しかしながら、小学生の時に学習支援が必要であるが、小学生は広域移動できないため、地域での学習支援活動が必須となっています。それが公共では、児童館であり、民間ではボランティア団体が行っていましたが、学習支援のノウハウの蓄積が難しく、付け焼刃的になりがちとなっています。また担い手も学習支援への理解が課題となっています。この事業をモデル事業として、まずは近隣から広めていく必要があると感じます。

## 9. 令和 3 年度以降の展望

平成 28 年度より受けてきた WAM 助成で、本事業が和歌山県内でも認知され必要性を求められることが多く、問い合わせも増えてきています。実際にはすぐに解決できる方法はないと考えていますが、将来に向け解決に向けた活動が必要であることも確かです。子どもの貧困は将来的な経済損失に繋がります。それがまた、経済的な格差が生まれる負のスパイラルとなっています。当会の活動も徐々に認知され、少しずつではありますが、新たな活動として子どもの教育を守る活動となって来ています。

引き続きの WAM 助成事業としての継続は難しいものの、当会のシステムとノウハウは続けていき、継承していきたいと考えています。子どもの貧困、教育格差は是正すべ

きです。行政、民間それぞれが知恵を出し合い、将来を担う子どもたちに教育を施し、和歌山モデルとしていきたいと考えます。

今後は公共の施設を教育のために有効活用、地域の人材の有効活用していくべきとも広めていきたいと思えます。できるだけ早い学年からしっかり学習習慣を身に着けさせることと、またシステムを各地域に広めていけるようにしていきたいと思えます。

#### 10. ご協力頂いた方々

- ・和歌山県子ども会連絡協議会様
- ・児童館連絡協議会様
- ・新宮市社会福祉協議会様
- ・和歌山大学：足立研究室様  
谷口研究室様  
金川研究室様
- ・和歌山大学キャリアセンター様
- ・和歌山県教育委員会様
- ・和歌山市教育委員会様
- ・新宮市教育委員会様
- ・湯浅町教育委員会様

#### 11. 会長より

皆様、昨年度に引き続き本年度は多大なるご協力を賜りまして誠に感謝しております。私、そして「和歌山の教育格差をなくす会」は和歌山県の学力向上を目指し、教育格差、貧困の世代連鎖の是正を目標としています。

近年では、子どもの教育について様々なことが取り上げられています。しかしながら、まだまだ実行に移している地域は一部です。今の子どもが将来の経済活動を支えています。今できることはいましておくべきだと考えており、当会のシステム普及・向上はもちろん、行政制度化・予算化も並行して推し進めていきます。ご賛同いただける皆様にもしっかりと伝えていきたいと思えます。

これからもご迷惑やご無理を申し上げることもございます。当会員一同ますます精進してまいりますので、どうぞ今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

和歌山の教育格差をなくす会  
会長 角野 寛典